学習院大学新聞

発行所
学習院大学新聞社
東京都豊島区目白
1丁目5番1号
電話(3986)0221内線2607
編集・発行人　桐生　英明
年間300円

自己点検の動き始まる

『学習院大学の現状と課題』

自己評価委員会 報告書を作成

一部では自己評価も

今年三月『学習院大学の現状と課題』と題する学習院大学の自己点検結果の報告書が作成された。一九九一年、文部省による大学設置基準改正により、大学に自己点検・評価が求められ、現在、全国の大学で自己点検・評価の動きが進んでいる。本学でも、一九九三年から自己評価委員会を設置し、自己点検・評価を進めているが、まとまった形での報告は今回が初めて。自己点検・評価のつぎ向は点検のみであるものの、今後の本学の自己点検・評価の足掛かりになるものとみられる。

学習院大学は、今年三月、自己点検・評価に関する報告書『学習院大学の現状と課題』を作成した。これは一九九四年から計画されていたもの。本学の自己評価委員会が執筆にあたり、自己評価作業委員会によって編集された。

今回の報告書は、本文を教育・研究と事務組織の両側面から検し、学習院と学生全体の現状を把握することを目的として作成された。自己点検・評価のうち、学習院の現状を把握する部分をまとめたものであるといえる。教育・研究の面では、カリキュラムや、研究内容、図書館や研究所といった施設の設置や利用状況など、事務組織の面では業務内容や運営方法などが点検され、現状問題点が述べられている。各学部・学科や機関、事務部署がそれぞれ個別に点検作業を行ったため、形式の統一はなされていない。また点検項目や、問題点の指摘の度合いにも差がみられる。

大学図書館だけでなく、部で評価の動きが始まったのは事務部署の部長、施設の所長（同時）の提案で、自己評価問題等検討委員会が組織され、他大学における自己評価委員会の委員を中心とする自己評価の方法などを研究し、本学での実施にむけてガイドラインを作成、学長へと提出。翌年六月に自己評価委員会は、同時に大学に自己点検・評価が求められるようになった。自己点検・評価の実施にあたっている。自己評価委員会は学長を委員長とし、各学部長や各委員会が執筆した点検結果の編集を行い、今回報告書として編集された。

具体的に提示している部署もある。

自己評価委員会では、今後も自己点検・評価作業を継続していく予定。

（解説）

一九九一年七月に大学設置基準が改正され、それまでは大学を規制していたさまざまな基準が緩和された。以来、自己点検・評価が求められるようになった。

大学図書館

豊島区民に開放

本学を含む四大学で

四月一日から豊島区では、区民が豊島区内の四大学図書館に無料で入館できるようになった。本学では、以前から自主的に図書館を開放していたが、区と大学図書館が相互に行った話し合いの結果、接点が見出されはじめたことが、区と大学図書館が無料入館を交わしての交流は、二十一はなされていない。また点検項目や、問題点の指摘の度合いにも差がみられる。

自己評価委員会では、今後も自己点検・評価作業を継続していく予定。

（解説）

一九九一年七月に大学設置基準が改正され、それまでは大学を規制していたさまざまな基準が緩和された。以来、自己点検・評価が求められるようになった。

自己評価委員会は、同時に大学に自己点検・評価が求められるようになった。

自己評価委員会は、学長を委員長とし、各学部長や各委員会が執筆した点検結果の編集を行い、今回報告書として編集された。

自己評価作業委員会は、一九九四年七月に設置された。

自己評価作業委員会は、本学において自己点検・評価の動きが始まったのは一九九二年三月、早川東三学長（同時）の提案で、自己評価問題等検討委員会が組織され、他大学における自己評価委員会の委員を中心とする自己評価の方法などを研究し、本学での実施にむけてガイドラインを作成、学長へと提出。翌年六月に自己評価委員会は、同時に大学に自己点検・評価が求められるようになった。

自己評価作業委員会は、一九九四年七月に設置された。

自己評価作業委員会は、本学において自己点検・評価の動きが始まったのは事務部署の部長、施設の所

不況をふきとばせ 活力あふれる起業家たち

長引く不況で学生の就職が厳しい状況に立たされる中、若者たちは自分の内面を見つめ、人生の価値観や生き方を探し始めました。そんな中で、一企業に就職するのではなく自ら事業を開く「若手起業家」が注目されています。ここでは、学習院大学のOBの方々、三者の年代の差は多少ありますが、自分のやりたいことを見つけ、前向きに事業を展開していく姿勢は皆同じです。起業家の姿、その魅力に迫りました。

㈲インテラート　山本　恭子さん　古谷英里子さん

山本恭子さんと古谷英里子さんは、ともに仕事に就きたいと考えていた。しかし、就職氷河期と言われる昨今、英語力を生かせる企業に就職することは難しい。それなら、自分達で翻訳会社を作ろう」と、意気投合していることになった。

1996年八月に有限会社「インテラート」を設立。モデルとしていた社長の人脈で当初から多くの注文が来て繁盛が続いた。実際の翻訳業務も自分達でおこなっていたが、現在では三千名程の翻訳家に割り当てて社内で翻訳部門を持たなくてもよくなった。

将来は、印刷部門まで含めた規模にするという。翻訳家として、二人三脚で運営を続ける。

山本恭子　（やまもと・きょうこ）
古谷英里子　（ふるや・えりこ）

山本恭子（写真右）。高校2年から3年までロンドンに留学。1995年8月「㈲インテラート」設立。96年3月本学ドイツ文学科卒業。24歳。

古屋英里子（写真左）。小学校から高校までをアメリカで過ごす。95年3月、本学英文学科卒業。24歳。

ユニコーンクリエーション　峯川　直さん

峯川直さんの主な仕事は、コンピュータのコンサルティングだ。具体的には、中小企業を対象としたコンピュータの導入計画、教育指導などを行っている。他にも専門学校の講師などさまざまな仕事をしている。現在までには幾つかの紆余曲折があった。

大学卒業後は、五年間でコンピュータのソフトやハードを扱う会社と不動産会社を退社後、生命保険会社に転職。しかし、所属していたシステム部門の閉鎖性と仕事内容に失望する。

ここで「企業という組織の中では自分の好きなことができない」と独立を考えた。大企業と違い、多くの中小企業ではコンピュータのコンサルタントまでは手が届かないのが現状だった。そこに目をつけた峯川さんは独立を決意した。

家族や妻も独立することを援助してくれた。その点に関して感謝している。また、生命保険会社を辞めて独立するのに重要な要素だったと峯川さんは語る。

仕事の内容が新しい分野なので、営業活動の仕方や、継続的に仕事をとれるかどうかの不安はあった。

㈱クリエイティブマーケティングサービス　吉田　親さん

吉田親さんは学生時代、早稲田大学の大学院に進み、後、退社し独立した。

現在は二十人以上の社員を抱える吉田さんの会社は、会社をマンションの一室だった頃から持ってきてくれた調査依頼を地道にこなしていった。設立当初、仕事がまるでない時には、友人からお金を借りて、夜間新宿で本業と

転職を経て自己発掘　峯川さん
友人との二人三脚　山本さん　古谷さん
学んだ学問を実践　吉田さん

ス発想で乗り切っている。取引先にもちろん学生がなってもらう、という姿勢が接しているそうだ。

自由な時間のあるもしがうらやましくなることもあるという二人。しかし、「やりがいと充実感は自分達で作っていく」という目標を持ち、前向きに進んでいる。（光瀬香里）

記者の眼

「風呂敷文化」を生かして

日本は、従順さと排他性という正反対の性格を合わせ持つ国である。そして、それを相手によって使い分けている。

従順さとは、他国の文化を進んで受け入れることである。文明開化以来、日本は欧米の文化を際限なく取り入れて来た。その傾向は、アメリカとの結び付きが強化されることで益ます加速した。一方、排他性とは受け入れたくないものに対し、それを拒否する事である。韓国の場合、日本に同様な性格がないわけ、それを実感するものだった。

このような日本の文化は、日本古来の風呂敷に例え、「風呂敷文化」と言えるのではないだろうか。風呂敷は、どんなものでも、包み、結べば排他性を持つ。従順さと排他性が混在する様が、結び方次第で正反対の性格になる風呂敷を連想させる。

それに対し欧米諸国は、植民地政策にみられたように自国の文化を他国に押しつけがちである。それは、日本の風呂敷に対し型をとった「鞄」のイメージである。いわば一種の文化、といえる。鞄に入るように中身の形を変えたがるのだ。

風呂敷は日本特有のものと考えがちだが、実は韓国にも存在する。そして実際、日韓共通「風呂敷文化」を共有しているのだ。韓国も朝鮮戦争以後は、日本と同様にアメリカに従順な姿を示している。その一方で自尊心が強く、「反日」「嫌韓」の思い潜在意識が広い韓国は、日本と同様に排他性を示唆している。韓国では、「反日」の歴史を厳後安心の問題とし、形式上は日本文化の流入を拒絶。時には国内感情と国民の目をそらす政策の一つとして、異常ではと反日感情を煽る。それに対し、日本は「嫌韓」の思い強くし、韓国からの正当な意見も見えなくなっている。

「風呂敷文化」には、「鞄（文化）」が持つとができない特徴がある。それは「フレキシビリティ（適応性、柔軟性）」だ。風呂敷はものを包む時に、風呂敷自体を変形させる事ができる。他国の文化を受け入れさえすれば、それを自国の文化に生かすことができるのだ。日韓関係において欠如している柔軟性を発揮するには、風呂敷の結び目を作る事なく、何ものにも縛られずに、異なる意見を同じ土俵の上で言さわぐ事ができる。よりよい考えを生み出すことになるかもしれない。

組織批判の危険性

批判という行為は本来建設的なものであるから、悪い面ばかりではない。しかし、「批判」という言葉は、「組織批判」と言えば、「組織批判」は、「個人批判」と言えば、「個人批判」と言えば、「個人批判」と言えば

任意団体はいずこに

現在、学習院大学には、四十以上の任意団体が存在する。これらには、テニスやサッカー、ダンスサークルなどがある。任意団体は公認団体と異なり、大学から予算が与えられず、部室もない。ゆえに、活動場所を確保するのが大変になっており、任意団体は学内の施設を利用し、部室の代わりとしている。

任意団体が主に利用する施設は、学生ホールや学生集会所などである。また、放課後や西一号館などの空いている教室を使う団体も多い。

学生ホールなどの施設には、任意団体だけでなく、一般学生や部室を持つサークルや部も集まる。このため、特に昼休みは、学生ホールと学生集会所においては、一般学生や部室を持つサークルや部も利用する。

サークルの場所取り合い、混雑の一因となっている

（本文と写真は関係ありません／カフェテリア杜）

任意団体が頻繁に利用するのが、学食である。一階には、八前後の団体が集まる。二階のめんコーナーは、任意団体に加えて、部室を持つサークルや部も利用する。

一、二階の団体は、ほぼほとんどの団体は、食事を終えてもテーブルを離れないため、一般学生から不満の声が挙がっている。学食は利用者に対する席数が絶対的になく、トレーを持ったまま、席を探している利用者が多い。不満の多くは「空いているときはいいけれど、混雑しているときは席を譲ってほしい」というものだ。

一階を利用する任意団体の中には、昼休み前に荷物をおいて、席の確保をしているところがある。たいていテーブル五、六席に、バッグやスポーツ用具を置いたり、カフェテリア店長の東文雄さんは、「これに対して、学生に荷物をどかすように頼んでいる」と言う。

学食の混雑を避け、学生ホールや学生集会所を利用するサークルなどが、主に利用する。時間帯は昼休みと、火・木曜日の放課後が中心。学生ホールでは、五前後のテーブルを二、三の任意団体が使う。

学生ホールと学生集会所は、部室がある部や、サークルなどが、主に利用する。このため、任意団体の中には「学生ホールで、席がとれない」ので、空いている教室に集まる「ところもある。一般の利用者からは、「ラケット置き場にしているように、我がものの顔で使っている」という声も聞かれる。

部室なき任意団体の施設利用

毎日特定のテーブルを利用しているところがある。たいていテーブル五、六席に、バッグやスポーツ用具を置いたり、カフェテリア店長の東文雄さんは、「これに対して、学生に荷物をどかすように頼んでいる」と言う。

学食の混雑を避け、学生ホールや学生集会所を利用するサークルなどが、主に利用する。時間帯は昼休みと、火・木曜日の放課後が中心。学生ホールでは、五前後のテーブルを二、三の任意団体が使う。

学生ホールと学生集会所は、部室がある部や、サークルなどが、主に利用する。このため、任意団体の中には「学生ホールで、席がとれない」ので、空いている教室に集まる「ところもある。一般の利用者からは、「ラケット置き場にしているように、我がものの顔で使っている」という声も聞かれる。

部室がないために、さまざまなスペースを利用し、活動する任意団体。これらの多くは「迷惑を掛けている」ものだ。部室がないため、昼休みに前に荷物をおいて、席の確保をしている。一般学生から不満の声が挙がっている。学食は利用者に対する席数が絶対的になく、トレーを持ったまま、席を探している利用者が多い。不満の多くは「空いているときはいいけれど、混雑しているときは席を譲ってほしい」というものだ。

一階を利用する任意団体の中には、「学生ホールで、席がとれない」ので、空いている教室に集まる「ところもある。一般の利用者からは、「ラケット置き場にしているように、我がものの顔で使っている」という声も聞かれる。

陽気に盛り上がる中南米研究会

学生相談所 突然の復帰

めじおん開催される

五月十六日から六月二日までの昼休み、軸に会館広場において、毎年恒例の目白音楽祭（通称めじおん）が開催された。主催は目白音楽祭行委員会（以下実行委）。軽音楽部などと、計七団体が参加、演奏した。

来年はめじ姿に参加も

めじおんは、一昨年まで学生相談所（以下学相）が主催し、学生部との交渉、宣伝、運営などの一切をなっていた。しかし、昨年学相は、音楽サークルの自主性を尊重するという理由で撤退。各音楽サークルの代表者が構成するめじ委が発足し、学相の仕事を引き継ぐことになった。

ところが今年になって、学相がめじおんの復帰を希望し、めじ委はこれを受け入れた。復帰の理由を、学相所長の稲葉準一たける・心三さんは、「ステージなどの機材は学相のものであるし、音楽サークルの役に立ちたいから」と説明している。今回はステージの組みなどと音量チェックをするのみなどを、稲葉さんが、「これに対し、めじ委の委員長の関根一さん（軽音楽部委員長・英三）は「学相がめじ委に加わってくれるのは大歓迎です」と述べた。双方の反応からみて、これまでの対立は、音楽サークルの自治を尊重するのは、「来年はめじ委に任せたいと、意欲的に話った。

学相は、音楽サークルの復帰を歓迎する。めじ委の委員長の関根一さん（軽音楽部委員長・英三）は「学相がめじ委に加わってくれるのは大歓迎です」と述べた。

双方の反応からみて、これまでの対立は、音楽サークルの自治を尊重するのは、「来年はめじ委に任せたいと、意欲的に話った。

これに対し、めじ委の委員長の関根一さん（軽音楽部委員長・英三）は「学相がめじ委に加わってくれるのは大歓迎です」と述べた。

文化系同好会総会で 二団体に警告処分

去る五月九日に文化系同好会総会が行われた。国際親善クラブとアジア・アフリカ研究会が警告処分を受け、また、長期研究会の解散が報告された。

二団体への警告処分の主な原因は、書類の不備と手続の未提出である。

国際親善クラブに対して、「他サークルの場所取りが、昼休みに前に荷物をおいて、席の確保をしている」ことが問題視された。

アジア・アフリカ研究会の警告処分が可決された。

今回は「団体として一回目警告処分だが、今後の活動によっては、来年一回目の警告処分が加わっており、また、長期研究会の解散については報告処分となっている。

学習院輔仁会と学支部文化系同好会規約 抜粋

第三十二条【発議による処分】二　総会決議に違反し、且つ本会に著しく不利益を招いた場合、常任委員会は除籍処分を発議できる。略

第三十三条【警告処分】　略　警告処分が二年連続して科せられた場合、除籍処分とする。

（その同好会規約抜粋を参照）

発議　賛成二十三・反対四・保留二で可決された。

アジア・アフリカ研究会は、長期研究会の解散については、一年前から部室を使用しておらず、事態を重くみた同常任委員会としての活動を停止していた。しかし状況が改善されたため、同席は今年二回目の警告処分を予定していた。ところが、今年四月に同研究会が解散届を提出。同常任委員会は、これを受理し、四月三十日付で解散を認め、同総会に出席した二十九団体のうち、除籍賛成は十三・棄権は一。警告処分の決議がなされた。結果、賛成二十三・反対四・保留二で、アジア・アフリカ研究会への警告処分が可決された。

長期研究会の解散については、一年前から部室を使用しておらず、事態を重くみた同常任委員会としての活動を停止していた。しかし状況が改善されたため、同席は今年二回目の警告処分を予定していた。ところが、今年四月に同研究会が解散届を提出。同常任委員会は、これを受理し、四月三十日付で解散を認め、同総会に出席した二十九団体のうち、除籍賛成は十三・棄権は一。警告処分の決議がなされた。結果、賛成二十三・反対四・保留二で、アジア・アフリカ研究会への警告処分が可決された。

今回は「団体として一回目警告処分だが、今後の活動によっては、来年一回目の警告処分が加わっており、また、長期研究会の解散については報告処分となっている。

『獄門島』

横溝正史著

獄門島

金田一耕助シリーズの一つであるこの作品を、テレビドラマで見たことがあっても、原作を読んだことのある人は少ないだろう。

舞台は瀬戸内海の小島、その名も獄門島という、この島には閉ざされた父親と、美しいがどこか影のある娘が住んでいる。主人公が乗り込んでいくと、この島には起こる殺人事件は手奈良だ、風の荒れ狂う闇夜に、死体をわざわざ梅の古木に逆さに吊す。殺人の意図が不可解なだけに、不気味さをいっそう増している。

金田一はこの殺人犯を狂人であると結論するが、だが実は、狂気しみて見える犯罪の下に犯人の冷徹な意志が働いているのだ。後に明らかになる殺人の真の意図とそのトリックは狂気というよりも、整合性を備えるとともに奇怪でもある。

一見、非現実的にしか思えない事件にリアリティを与えている孤島という閉鎖された社会における家族制度と村の本家・分家の勢力争い。この因習こそが人間の欲望をゆがませ、獄門島の狂気を生み出す根源となっている。

三島由紀夫の作品というと、とかく難解だというイメージがつきまといがちである。しかし、この作品には、読書嫌いの人をも容易に物語の世界に引き込んでしまうだけの力がある。主人公の、後に明らかになる、フランス社交界の貴婦人をもたじろかせるほどだった。だが、空襲により彼女はその顔に、おぞましいまでに醜い火傷を負ってしまった。美貌・そのものの価値である高伝に絶望を抱き続けていた彼女は、絶望と同時に、その醜たらい価値を自分に植えつけた天に対して、凄大な復讐を企てる。失意の底をさまよっていた周伯は、やがて自分の娘を、かつての妻のような美の化身に育てようと、自分の希望を

『女神』

三島由紀夫著

世界に引き込んでしまうだけの本家・分家の、長期研究会の解散が報告された。

三島由紀夫の作品というと、とかく難解だというイメージがつきまといがちである。しかし、この作品には、読書嫌いの人をも容易に物語の世界に引き込んでしまうだけの力がある。主人公の、後に明らかになる、フランス社交界の貴婦人をもたじろかせるほどだった。だが、空襲により彼女はその顔に、おぞましいまでに醜い火傷を負ってしまった。美貌・そのものの価値である高伝に絶望を抱き続けていた彼女は、絶望と同時に、その醜たらい価値を自分に植えつけた天に対して、凄大な復讐を企てる。失意の底をさまよっていた周伯は、やがて自分の娘を、かつての妻のような美の化身に育てようと、自分の希望を

妻子の物語が、敗戦後の日本を舞台に繰り広げられる。

周伯の妻である彼女は、造化の妙を感ぜしめる美女で、その威厳を伴った美しさは、フランス社交界の貴婦人をもたじろかせるほどだった。だが、空襲により彼女はその顔に、おぞましいまでに醜い火傷を負ってしまった。美貌・そのものの価値である高伝に絶望を抱き続けていた彼女は、絶望と同時に、その醜たらい価値を自分に植えつけた天に対して、凄大な復讐を企てる。失意の底をさまよっていた周伯は、やがて自分の娘を、かつての妻のような美の化身に育てようと、自分の希望を

読書

扱書

栓のない法経棟の洗面台

私は先日からコンタクトレンズを使い始めました。そこで初めて気付いたのですが、コンタクトレンズ使用者にとっていわば保証網のような水道の「栓」が、法経棟には一つもない。視力が弱いにもかかわらず、世界全明るくするようコンタクトレンズは、体の一部と考えなっている。洗面台で一瞬の不意思から手を滑らせたとき、コンタクトレンズが流れるのをくい止めるには、大切な役割を果

私の大切なもの

乗馬のヘルメット

文学部フランス文学科

篠澤秀夫教授

プロフィール

篠澤秀夫（しのざわ・ひでお）一九三三年東京都に生まれる。学習院大学文学部卒業、東京大学大学院修了。一九七三年本学文学部教授に着任。専門はフランス文学。

（金山洋子記者）

研究室をのぞくと乗馬のヘルメットがかざってある教授。面食らっていると、彼の乗馬歴の中で最も思い出に残る一年間を共にしたヘルメット。その思い出を語っていこう。

頼まれて原稿を前に、手が止まること教授にもある。そんな時、軽い運動をすれば血の巡りがよくなるのでは、と感じた。これといった運動が思いつかなかったのだが、小学生の頃百姓馬に乗っていたことを思い出し、これだ、という感じでさっそく始めることにした。

ちょうどその頃（一九七九年）月、学習院馬術部OBからの誘いがあり、きちんと習うことになった。毎週のように本学の馬場に通うほど熱中してしまったのである。何しろ、一年間で、初心者段階と言われる級を達成した。

乗馬に熱中したこの年は、桜会（おうあんかい・学習院馬術部OB会）が出月に行う「初乗り会」にも参加した。その日は愛用のヘルメットにつけていた桜の花びらを、ピンセットで行われる競技の中の一つで彼の参加した競技の中の一つで彼の参加した琴平（馬で行う椅子取りゲームのようなもの）では礼音楽（現在の秋篠宮殿下）と席を取りあったこともある。

こんな思い出がいっぱい詰まったヘルメット、色は褪（あ）せて、黒から茶に変色し、年期を物語っている。今使っているヘルメットは二代目。当時に比べると乗馬をするペースもだいぶ落ちてしまった。この古いヘルメットをかぶると、当時の気持ちを思い出してしまう。このヘルメットと共に過ごした一年間が彼に乗馬の楽しさ、奥深さを教えてくれた。そんな思いが詰まったヘルメットは彼の乗馬への思いそのもののようである。

（金山洋子記者）

『獄門島』

横溝正史著

獄門島

金田一耕助シリーズの一つであるこの作品を、テレビドラマで見たことがあっても、原作を読んだことのある人は少ないだろう。

舞台は瀬戸内海の小島、その名も獄門島という、この島には閉ざされた父親と、美しいがどこか影のある娘が住んでいる。主人公が乗り込んでいくと、この島には起こる殺人事件は手奈良だ、風の荒れ狂う闇夜に、死体をわざわざ梅の古木に逆さに吊す。殺人の意図が不可解なだけに、不気味さをいっそう増している。

金田一はこの殺人犯を狂人であると結論するが、だが実は、狂気しみて見える犯罪の下に犯人の冷徹な意志が働いているのだ。後に明らかになる殺人の真の意図とそのトリックは狂気というよりも、整合性を備えるとともに奇怪でもある。

一見、非現実的にしか思えない事件にリアリティを与えている孤島という閉鎖された社会における家族制度と村の本家・分家の勢力争い。この因習こそが人間の欲望をゆがませ、獄門島の狂気を生み出す根源となっている。

三島由紀夫の作品というと、とかく難解だというイメージがつきまといがちである。しかし、この作品には、読書嫌いの人をも容易に物語の世界に引き込んでしまうだけの力がある。主人公の、後に明らかになる、フランス社交界の貴婦人をもたじろかせるほどだった。だが、空襲により彼女はその顔に、おぞましいまでに醜い火傷を負ってしまった。美貌・そのものの価値である高伝に絶望を抱き続けていた彼女は、絶望と同時に、その醜たらい価値を自分に植えつけた天に対して、凄大な復讐を企てる。失意の底をさまよっていた周伯は、やがて自分の娘を、かつての妻のような美の化身に育てようと、自分の希望を

おわびと訂正

前号の三面「転機、迎える経営機センター」の記事中、窪田弘泰助手とあるのは、窪田誠助手の、城所誠助手の誤りです。関係者の皆様に謹深をおわびしたとともに、ここにおわびして訂正します。

（敬称略）

サークル探訪

グルメ愛好会と焼肉を喰らう

ある土曜日の午後六時、部内の「グルメ愛好会のメンバー（彼らは「グルメ」と呼ばれる。雑誌等でも取り上げられる。価する有名部活だ。彼らと合流し、早速目黒の店へと思いきや、駅から歩いて約一時間、迷ってやっと目的地に到着「あ迷って遠い場所にして腹を減らす」と怒りの声。

主催し、学生部の交渉、宣伝、運営などの一切をなって来たしかし、昨年学相は、音楽サークルの自主性を尊重するという理由で撤退。各音楽サークルの代表者が構成するめじ委が発足し、学相の仕事を引き継ぐことになった。

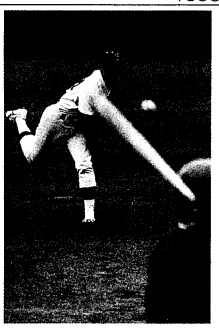
ところが今年になって、学相がめじおんの復帰を希望し、めじ委はこれを受け入れた。復帰の理由を、学相所長の稲葉準一たける・心三さんは、「ステージなどの機材は学相のものであるし、音楽サークルの役に立ちたいから」と説明している。今回はステージの組みなどと音量チェックをするのみなどを、稲葉さんが、「これに対し、めじ委の委員長の関根一さん（軽音楽部委員長・英三）は「学相がめじ委に加わってくれるのは大歓迎です」と述べた。

双方の反応からみて、これまでの対立は、音楽サークルの自治を尊重するのは、「来年はめじ委に任せたいと、意欲的に話った。

学習院 SPORTS

三月末から始まった春季リーグ戦が相次いで終了。男子硬式テニス部は、8年ぶりに2部返り咲きを果たした他、春季リーグへ向け好材料を残したチームも数多く見られた。（下段トピックスに、その他のリーグ戦結果掲載）

春季リーグ戦閉幕 好成績続出



快調に相手打者をきってとる鳴石投手（対上智１回戦）
一本学硬式野球場にて

男子硬式テニス

関東大学リーグ

四月二十八日、関東大学テニスリーグ第2部入替戦が、上武大学にて行われた。3部2位の学習院大学は、2部5位の上武大学がストレート勝ちを収め、4勝2敗で勝ち、2部昇格を決めた。

入れ替え戦では、ダブルス3試合をシングルス6試合に分け、あわせて9試合行われ、そのうち5勝した側が勝利する。

本学はダブルスで1勝2敗と負け越し、シングルスでは塚原識選手（法三）が第1セットは4−6で落とす。第2セットは6−6で接戦の末、相手がマッチポイントを迎えたかと、流れはわかからなスで藍澤選手（法四）の3選手が、ストレート勝ちを収め、4勝2敗と巻き返した。本学は勝利した。2部昇格は8年ぶりの快挙である。

藍澤武永選手（法四）は、シングルス3試合に出場した。既にダブルス3試合が終了し、5試合を消化した時点で2勝3敗、残り4試合中3勝しなければ、2部昇格がなくなるという厳しい状況だった。

対戦相手は武大学の佐藤選手。第1セットは4−6で落とす。第2セットは6−6で接戦の末、相手がマッチポイントを迎えたかと、流れはわかからなスで藍澤選手のほうへ変わった。相手と激しい打ち合いの末、藍澤選手は強いストロークを打ち返す。しかし勢いは衰へ、簡単に打ち返される球だ。しかも藍澤選手は大きくふられてコートの外に、絶体絶命。誰もが負けを確信したその時、相手のスマッシュが、フェンス直撃のアウトになった。命拾いした藍澤選手。その後ボレーの打ち合いに勝ち、ポイントを取る。第3セットでは6−1と圧勝。セットカウント2−1で逆転勝利した。

残り試合、相手は強豪選手が控え、おり、この試合に負けると、昇格戦なくなる。そんなプレッシャーにも打ち勝ち、藍澤選手は部員たちの期待に応えてくれた。

流れをかえたあのプレー

硬式野球

東都大学リーグ

硬式野球部五月二十二日の対順天堂大戦を皮切り、春季リーグの全日程を終了した。最終順位は3部リーグ6校中3位、目標の2部昇格には届かなかったが、後半に連勝するなど、秋季リーグへ期待をもたせる内容だった。

天野選手の横飛び中押しが入った（対順天堂２回戦）＝同上にて

全日本大会 男女とも快挙

スカッシュ同好会 どうだ！鋼だ!!

四月二十二日から二十六日まで幕張テクノガーデンにて全日本学生スカッシュ選手権大会が開催された。

◇総決算◇

男子3位入賞は最終日の関西学院大戦で決まった。1番手、川添浩一選手（営四）はメダルのことは考えず、今までの成果を出そうと試合に臨んだという。一球一球粘り強く喰に拾っていってプレーを第一とした。結果3−0のストレート勝ち。四年間の総決算として手にした初メダル。川添選手の頬に涙があふれた。

男子　決勝リーグ結果
対慶應大　0−5×
対専修大　1−4×
対関西学院大　4−1○

◇挑戦者として◇

対専修女子大戦、3、2番手戦（お詫びと訂正参照）を1勝0敗で終えた本学。勝敗は一番手戦で決まる。そのプレッシャーを受けつつも、本学1番手・井上真美子選手（法四）は「挑戦者として試合に挑んだ」というのは相手は二年生にしてキャリア七年のベテラン選手。結果は1−3と敗れたものの、1セットとこだ差が縮まり1点差で詰め寄った。格上相手との試合本学。

対慶應大　2−1○
対専修女子大　1−2×
対福岡大　0−3×

◇飛躍◇

四年前、男子は全日本に出場できず、女子は、全日本9位と雪っていなかった。だが、任意団体から公認団体へ昇格し、成績が急に伸び始めた。昇格が部員の意識改革をもたらしたからである。

まず試合に対する意識。各部員に本学代表という誇りと自信が芽生えた。今、大会を迎えて四年生は、当時一年生だった頃を思い出す。自然、といい加減に試合をしていたのが、一つ一つの試合を大切にするようになった。川添選手と振り返る。

練習に対する意識も変化だ。与えられた練習をただなすのではない。公認団体として、良い戦績を残したいという向上心が生まれ、各自定の目標に向けて自主的に練習する。

昇格からちょうど一年間で結果として返ってくるようになったのだ。

男女とも全日本3位に駆け上がった。向上心と練習を武器にして、全日本大会優勝を勝ち取るのは、そう遠いことではない。

（下田昌子）

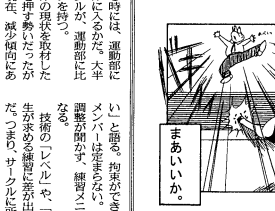
「練習は絶対に裏切らない」と嘉悦崇選手（営４・写真左）
北千住トリムにて

跳んだ！

馬術部団体で快挙

本学馬術部が、五月十～十二日の第三十三回東都学生馬術競技大会に出場。標準障害飛越競技で団体優勝を果たした。これは十数年ぶりという快挙である。

この競技は、定められた十七の障害を飛び越えるもの。一つ失敗することに4秒ずつ減点される。学習院は、計10落下、減点40での圧勝だった。団体優勝の選手・河野正寿選手（営四）・桐桜松本崇之選手（政四）・霞桜土井耕輔選手（法四）・陸桜山辺真一選手（政二）・黄桜草野はつき選手（法二）・菊桜



人馬一体となったジャンプ＝本学馬場にて

女子アーチェリー

関東学生リーグ

三月末三十一日から五月五日にかけて行われた1部リーグ戦。本学アーチェリー部女子はBブロックの3勝2敗とし、東海大学との順位決定戦の結果、3位となった。昨年度同ブロック1位の本学にとっては、不本意な成績に終わった。

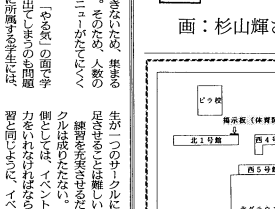
アーチェリー部は週3回各2時間の正規練習に加え、各自で空き時間にも練習する。練習は十分だった。にもかかわらずこのような結果になったのは「四年生が多かったので下級生が頼りきってしまった」（岸菜千恵女子リーダー・心三）から。強い四年生がいるという安心感が「一三年生の普段の実力を奪ってしまったということ。

今後の課題は、四年生のあと任を引き継ぐ下級生がどれだけ「自分たちが自覚をプレーに出せるか、というところにあろう。

（鈴木絵里子）

アーチェリー女子　1部Bブロック勝敗表

	学習大	東海大	東海大	慶大	拓実大	神大
学習大		●	●	○	○	○
東海大	○		●	○	○	○
東海大	●	○		●	○	○
慶大	●	○	○		○	●
拓実大	●	●	●	●		●
神大	○	●	●	●	●	



狙いはただ一点
一本学洋弓場にて

トピックス

●硬式野球部
東都大学硬式野球春季リーグ戦（四月二十一日～五月十二日）上智大学グラウンド他にて

対上智大学　3−5　負
対青山学院大学Ⅱ部　5−7　負
対東京薬科大学　5−3　勝
対慶應大学　9−2　勝
対一橋大学　22−1　勝
5勝2敗　6−5　勝
4部2位
●ソフトテニス部女子
関東学生ソフトテニス春季リーグ戦（五月十二～十二日／千葉県白子町テニスコートにて

対城北大学　0−3　負
対千葉大学　0−3　負
対東京都立大学　2−1　勝
対玉川大学　2−1　勝
対学習院大学　0−3　負
対東京都宮大学　0−3　負
2勝3敗　3部4位

●硬式庭球部女子
関東大学テニスリーグ女子（四月四～二十八日／学習院学生他にて

対日本女子体育大学　3−4　負
対東京女子体育大学　2−5　負
対日本体育大学　1−6　負
対東海大学　1−6　負
1勝4敗　2部6位
2部入れ替え戦
対聖心女子大学（今部4位）　5−2　勝
2部残留

＊　＊　＊

剣道新人戦

敗戦の中にも価値ある益川の一勝

五月二十五日、東京武道館にて、一二年生を対象とした第四十三回関東学生剣道部冠戦（コーチ・高野茂）が行われた。学習院大学剣道部は、1勝4敗と惨敗し、2部6位に終わった。

対早稲田大学　4−3　勝
対日本体育大学　4−3　勝
対東海大学　3−4　負
対明治大学　2−5　負

剣道新人戦が行われた。学習院大学は、1回戦東京国際大学に4勝2敗1分で勝ち、2回戦に1勝1敗1分で勝敗、2回戦敗退となった。

＊　＊　＊

「技術的に精神的にも負けていた」（学習院大学剣道部冠戦コーチ）との言葉通り、学習院大学剣道部は、すべて物語っている。格上の城西大学を相手に、思うように試合運びができない焦りから、とにかく無造作に打ち込み、そこを簡単に一本取られて、二本取られてしまう。先鋒から副将まで5敗1分。わずかに面一本を取ったにすぎなかった。そんな中、唯一気を吐いていたのが、大将の益川平三段（営二）である。1、2回戦とも勝敗の決し方に、常に「ここぞ」という場面で、一本を取りに行く、常に試合の主導権を握って、集中力を欠くことなく、相手を圧倒する。

後後での登場であったが、ここぞ、という場面で、打ち込みの選手の相撲さが自立ったので、面打ち、切り返しなどの基本剣道力を見せる必要があるのではないか。また、四大戦をはじめとする戦を積んで、自信をつけるには、格上の相手に堂々と向かっていけるはずだ。今後の彼等の活躍に期待したい。

（宇山雄一郎）

益川はこの日、相手に一本も取られることはなかった

大学生にとってのスポーツ

①サークルが抱える悩み

大学でスポーツを考える時には、運動部に入るか、運動系サークルかの、大半の学生は、運動部に比べ敷居がないイメージを持つ。

今回、運動系サークルの現状を取材したところ、今まで運動部を押す勢いがあったサークルの人会者は、現在、減少傾向にあるらしいことが分かった。運動系サークルの抱えている問題点は何であろうか。

それは、さまざまな目的を持ち合わせた学生をまとめていく難さだ。

まずは、拘束をしない」のがサークルの魅力であり、売りだったが、今では、逆にデメリットとなっている。拘束できない、さまざまな、という概念は、運動系サークルに所属する会員に共通した悩みだ。

サークル「ジュガー」のキャプテン和田源さんはしめ・営二）は、練習を強制することができないので、練習にくる人が少ないと語る。拘束ができないため、集まるメンバーはまちまちだ。そのため、人数の調整が難しく、練習メニューがたてにくくなる。

技術の「レベル」や、「やる気」の面で学生が求める練習に差が出てしまうのも問題だ。つまり、サークルに所属する学生には、二つのタイプの人がいるといえる。二方は、生が一つのサークルにいるので、両者を満足させることは難しい。

練習を充実させるだけでは、運動系サークルは成り立たない。サークルを統率する側としては、イベントや常開気づくりにも力をいれなければならない。なぜなら、練習同じように、イベントをメインとしている学生もいるからだ。

テニスサークル「SSSパンサーテニスクラブ」のキャプテン、香山明彦さん（商三）は、「サークルにとって重視するものが違うが、どのサークルもスポーツを行うことだけでなく、飲食、イベントなどすべてを考えなければいけない。だから、サークルの人数が増えればそれに比例して、面打ち、切り返しなどの基本剣道力を見せる必要があるのではないか。打ち込みの選手の相撲さが自立ったので、面打ち、切り返しなどの基本剣道力を見せる。目標のベストには届かないが、試合の主導権を握って、集中力を欠くことなく、常に「ここぞ」という場面で、一本を取りに行く、多くの試合に出場する。

一つは昔ながらの、「仲間」を作ることだ。いつも無表情でボサボサの髪の彼が、きちっと髪を整え正装し、情熱的にトランペットを吹いていたまた、フランスス部公演（偽客を笑いの渦へ巻きこんだ赤鼻の男は、いつも一番前の席で熱心に講義をうけている彼女だった▼鳥肌が立つほど感動したエイ研のマクベス。その演出をしていたのは、いつも真面目でベラベラいる彼だった。シェイクスピアの悲劇に、見事を吹き込んだのが、あの彼だったとは！▼4年間、教室では多くの学生に出会った。ただ好れ違うだけ、挨拶をするだけ、ではあまりにも寂しい。教室での彼・彼女とは違った、新たな魅力を発見しに、みなさんもいろいろなサークルの催しを見にいってみるのも、楽しいかもしれない。（優）

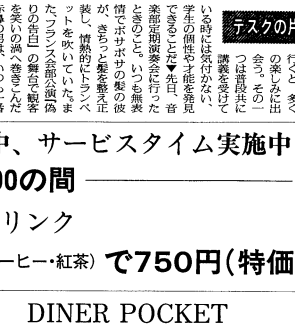
テスクの片隅

応援ガイド

学内大会も終わりに近づいている。バドミントンの準決勝・決勝が今週行われます。男女各上位3チームが四大戦への出場可能。あなたの友達がいるかもしれません。

準決勝　六月十一日（火）
決勝　六月十二日（水）
男女とも各昼休み
於大学体育館

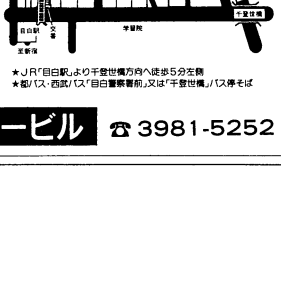
※トーナメント表は掲示板（左図参照）に表示



おわびと訂正

前号の硬式野球部のメンバー表で、柴田寿介選手の背番号は28とありましたが、26の誤りでした。また、スカンの記事中、一部誤解を招く表現がありました。選手は3番手、2番手、1番手の順に出場し、一番手にチームで最も実力のある選手が選ばれます。

おわびして、訂正をします。

ポケット・雑誌掲載記念！ 6月中、サービスタイム実施中
11:00～14:00の間
スパゲティ ●きのこ入りジャポネ ●ミートソース ●ナポリタン
ポークカレー ハヤシライス
ドリンク（コーヒー・紅茶）で750円（特価）（大盛りで）
＋
※パーティー（2500円）も常時受付中
DINER POCKET
03(3984)2936

自作自演の Urban Life SPACE 5
学習院中高門まえ
多目的貸ホール 貸教室・貸画廊
目白カルチャービル
☎3981-5252
★JR「目白駅」より千登世橋方向へ徒歩5分左側
★都バス・西武バス「目白警察署前」又は「千登世橋」バス停そば